

第4課 補足練習の解説

①

- ・(1) 「毎日」は4格で示す。
- ・(2) 「週末に」「何曜日に」などは、「出来事が週末やその日にある」という意味なので、行き先ではなく位置の表現に準ずる。そこで、anの後ろは3格。
- ・(4) fehlenは「 因^3 に 罇^1 が欠けている」という使い方をする。
- ・(6) helfen は目的語を3格で取ることに注意。

②

- ・(3) 前置詞の文字どおりの意味を考えても、この場合、どれを使ってよいかは、まず見当がつかない。warnenが「(因^4 に) $\text{罇} \cdot \text{罇}^{\text{vor}+3}$ を警告する」という使い方をするという辞書の記述を参照してはじめて、正しい前置詞が分かる。
- ・(4) (3)と同様、ここでも achten が熟語的に目的語を auf + 4格で求める。
- ・(5) これもerinnernが「(因^4 に) $\text{罇} \cdot \text{罇} \cdot \text{罇}^{\text{an}+4}$ を思い起こさせる」という使い方をすることを、辞書で確認する必要がある。
- ・(7) 「北海 (の中)」は船が沈んで行く行き先なので、inの後ろは4格。
- ・(8) 「雲の後ろ」は一見、(7)と同様、行き先に相当するように思われるかもしれないが、「雲の後ろに消える」は「雲の(前にあった状態から) 後ろにある状態になる」ということ。つまり、「後ろ」は状態変化後の位置なので、hinterに3格が続く。さらに詳しくは下の「ステップアップ④」を参照。
- ・(9) これも(8)と同様に捉えられ、aufは3格を従える。
- ・(10) 川が岸より上まで来る、つまり水があふれるのなら、両岸であふれるはず。つまり、このUferは複数形と解釈しなければならないので、überの後ろの定冠詞はdasではなくdieとなる。

ステップアップ④ 移動か、位置変化か？

②(7)～(9)で、sinken「沈む」は移動、verschwinden「消える」やlanden「着陸・着水する」は位置変化(「どこかにある状態になる」という具合に異なった捉え方がされ、それに応じて前置詞の格支配も異なると説明した。しかし現象としては、どちらも場所が移っているわけで、大差はないようにも思われる。いったい、どのような場合が移動で、どのような場合が位置変化なのだろうか？

重要なのは、移動は観念的に継続可能、位置変化は継続不可能であるということである。例えば、船は水の中に沈んでも、さらに沈み続けることができる。海底に達したあとも、まだ砂の中に沈んでいくかもしれない。実際の現象としては、どこかで沈むことは終わるだろうが、頭の中の観念としては、移動は無限に続いていくことが可能である。

これに対し、月が一旦雲の陰に消えれば、この「消える」はそれで完了し、同じ出来事がそのまま続くことはない。確かに「消え続ける」という言い方はあるが、これは「沈み続ける」が「沈む」という出来事の継続だったのとは異なり、「消える」という出来事の継続ではなく、「消えてしまっている」という状態の継続である。また飛行機も、一旦どこかに着陸すれば、その着陸は継続しない。確かに「着陸し続ける」とは言えるが、それは反復、つまり、その都度その都度完結する出来事の繰り返しなのであって、ひとつの着陸のまま継続することはない。

このように、一見、場所の推移として変わらないように見える出来事も、頭の中では継続可能な移動と、継続し得ない状態変化とに分けられる。そしてドイツ語前置詞の 3・4 格支配は、およそこの原理に従って使い分けられるのであり、ドイツ語を知らない我々でも、その仕組みは十分理解できるはずである。

3

行き先に応じて的確な前置詞を使うことと、und や aber, oder など、並列の接続詞を使って文をつなげることを試す練習。一般的な行き先を示す前置詞は、多かれ少なかれ熟語的な面があるので、特にはじめのうちひとつひとつ確かめて覚えていくのがよい。

- ・ (1) Bahnhof「駅」を行き先として示す場合、zu を使うのが一般的。教科書 12 頁 I-3) を再度参照。
- ・ (2) Rathausplatz「市庁舎前広場」は平面なので、「～の上」を表す auf で行き先を示す。
- ・ (3) Kino「映画館」は囲われた空間なので、「～の中」を表す in で行き先を示す。
- ・ (4) Bank「銀行」は、実体としては囲われた空間 (=建物) に違いないが、観念としては公共の場、つまり開かれた場所であり、ちょうど民主主義のために開かれた広場のようなものである。ゆえに in die Bank ではなく、auf die Bank となる。もしくは、zur Bank でもよい。さらに、wechseln の人称変化にも注意: ×ich wechsele ○ich wechsle (→第 1 課)。また、並列で主語が同一の場合 (ここでは er)、後続の文で再度示さなくてもよい。
- ・ Wir schwimmen im Meer を否定する場合、否定の焦点は「海で泳ぐ」ことである。ところで、ドイツ語の語順は平叙文、疑問文の区別をつける以前の段階では wir im Meer schwimmen。この語順で「海で泳ぐ」にあたる im Meer schwimmen の前に否定辞 nicht を置き、平叙文なのだから、定形動詞を 2 番目に繰り上げる。すると、解答の語順となる。